

道 -ROAD-

大阪学芸中等教育学校
校長室だより

18 期生 126 名の旅立ち

「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」と言われるように、3 学期はあわただしく日々が過ぎ去っていきます。早いもので 3 月に入りました。暖かさが増し各地から梅満開の便りが聞かれます。「三寒四温」を繰り返しながら春の到来を告げるころとなりました。

いよいよ来週の 5 日(火)から 5 日間、学年末考査が実施されます。2 学期末考査が終わってから期間が長かったので、テスト範囲がいつもより広い科目もあるかと思いますが、時間を十分かけながら家庭学習に励んで、テストに臨んでください。全員が気持ちよく次の学年に進級し、また新たな次の目標に向かってスタートが切れるよう、皆さんの奮起を期待しています。

さて、昨日 3 月 1 日(金)に第 18 回卒業式を挙行了しました。厳粛な雰囲気の中で、6 年間の思い出を胸に 18 期生 126 名が「友愛の学び舎」を巣立っていきました。思いを込めた校歌斉唱の後、生徒一人一人に卒業証書を授与いたしました。緊張した面持ちながら、壇上で卒業証書を受け取る卒業生の目を見てみると、これから頑張るぞという決意が感じられ頼もしく思いました。18 期生の今後の活躍を期待しています。

以下に、「式辞」を掲載（一部省略）しました。ぜひお読みください。

第 18 回卒業式 式 辞 (抜粋)

ただいま、一人一人の生徒に卒業証書を授与いたしました。本日卒業証書を手にする事ができたのは、皆さんの努力はもちろんですが、その陰には、深い愛情を持って見守って下さった家族の方々や、先生方、友だちなど多くの人たちの励ましや支えがあったことを忘れないでください。これらの方々から感謝の気持ちを自分の言葉で伝えて欲しいと思います。

さて、卒業生の皆さん。今、6 年間の様々な思い出が皆さんの心の中をめぐっていることでしょう。本校の 18 期生として、学習はもちろん、様々な学校行事やクラブ活動においてよく努力しました。私も色々な場面で皆さんの活躍を眼にして、皆さんが持つ、素晴らしい能力を実感しました。とりわけ、コーラスコンクールでの心をつにしたクラス合唱や、また中等祭として連日開催した文化祭や体育祭は、6 年生が中心となり、下級生と力を合わせ全員で取り組んだ成果が表れ、若いエネルギーが満ち溢れた素晴らしいものでした。そして、6 年間の充実した日々の中で、共に学び、共に過ごしたクラスメートとの友情を、生涯の宝としていつまでも保ち続けて欲しいと思います。

今日の卒業式は、人生の一つの大きな節目であり、新しいスタートラインに立つ、記念すべき日です。今日の輝かしい門出に際し、はなむけとして期待することを 2 つ、話をしたいと思います。

【裏面へ】

まず第一に、「人間性を磨く」ということです。

皆さんは平成最後の卒業生となりました。振り返ってみると、昭和が終わり平成の始まる頃、ノートパソコンや携帯電話が出てきました。インターネットが始まったのもこの頃で、平成7年の阪神淡路大震災での情報発信に威力を発揮し、一気に普及しました。その後、携帯電話に代わり、スマートフォンが普及し始め、この10数年間の進展ぶりは、皆さんも知っての通りです。

一方、未来に目を向けてみましょう。2045年問題という言葉を目にしたことはありますか。2045年にコンピュータの性能が人間の能力を上回るという予測があり、それによって起こるさまざまな問題の事を言います。果たして人工知能AIは人間の知能を超えるのでしょうか。2010年にアメリカで「ディープラーニング」という革新的な技術が開発されました。画像認識ができる技術で、AIに眼が誕生したと思えば分かりやすいと思います。自動車を含め、医療や農業、調理、介護など、これまで人が眼を使って行ってきた作業が、AIで自動化されることになれば、かなり大きな社会変化が起こる事は確かでしょう。

そのような時代に皆さんは確実に生きていかなければなりません。文明が高度になり、情報があふれる、このような社会で、私たち一人一人の人間性を磨く努力もさらに求められます。知識の量では、人間は人工知能に絶対に勝てません。知識だけでなく、柔軟な発想力や創造性、感性などの「人間的な能力」に磨きをかけ、人間としての価値を見出すことが一層重要になります。

社会の中で生きていく上で、大切なことは人との関わりです。そこに人間が新たな価値を創りだす源があります。人との関わりで大切なことは、相手を受け入れようとする姿勢です。卒業後も、人に対して思いやりの心を持ち続け、豊かな人間性を身につけて欲しいと思います。

次に「諦めず挑戦していく」ということです。

私が、以前全校集会で話をした「ファーストペンギン」という言葉を覚えていますか。

「ファーストペンギン」というのは、群れの中で最初に海に飛び込むペンギンを指す言葉です。南極に暮らすペンギンは、隊列を組んで氷の上を移動したり、エサの魚を囲い込んで捕えたり、群れで固まって行動しますが、特定のリーダーはいないそうです。例えば、危険が迫った時、いち早く気付いた一羽の後に続き難を逃れます。つまり、最初の一羽に従うのが大きな特徴です。

陸で育ったペンギンは親ペンギンから海に入ることを教わります。ところが、大きな波が打ち寄せ海の中には、シャチやトド、オットセイなどの肉食獣が大きな口を開けて待ち構えており、多くのペンギンは怖くてなかなか入ろうとはしません。そんな時、一匹のペンギンが「我に続け！」とばかりに勢いよく海に飛び込みます。そうすると後に続くように次々と仲間のペンギンが飛び込み、餌にありつけるということです。

「ファーストペンギン」は、3年前にNHK朝のテレビ小説で放送された「あさが来た」の中で、大阪経済界の父といわれた五代友厚が主人公の実業家 広岡浅子をファーストペンギンにたとえ、こうありたいと語った言葉で、世間に知られるようになりました。

アメリカの大学では「人と同じでなく、ファーストペンギンを目指しなさい」という教えが徹底されているそうです。そして、このように勇気を持って未知の世界や仕事に飛び込むことを「ファーストペンギン・スピリット」というそうです。

これまで、皆さんは日々の生活の中で、「あの時、勇気を出して一歩踏み出せばよかった」とか「あの場面で勇気を出して話をしておけばよかった」など、後悔をしたことがありませんか。「このままでいいや」と、いつも通りの生活を繰り返していると改善や進歩はありません。これから、いろいろな場面において、自分で決断し、本当に必要だったら勇気を出して行動できる「ファーストペンギン」になって欲しいと思います。

未来は3つの名前を持っていると言われます。弱い者にとっては「不可能」、臆病な者にとっては「未知」、勇気ある者にとっては「理想」という名前です。失敗は終わりではありません。あきらめたときに本当の失敗となるのです。勇気をもって、たくさんの事に一歩を踏み出してください。そして、今まで以上に自分を高め、「将来の夢」の実現に近づいて欲しいと思っています。